

平成10年度第2回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時： 1997年12月20日（土） 13：30～17：20

場所： 名古屋大学理学部 E館 068号室

出席者：松本会長、郷通、川戸両副会長、桐野編集実行委員長、太和田10年度年会実行委員長、青木、赤坂、市川、桂、木島、楠見、栗原、重定、中村、永山、八田、藤吉各委員、山田11年度年会実行委員、永田学会秘書、大塚会長秘書

報告事項：

1. 賞・助成金推薦委員会報告（郷通）

内藤記念科学振興賞の受賞候補者として森川耿右会員を本学会から推薦する件について、運営委員16人中15人（過半数）の賛成をもって了承され11月4日に届け出た旨の報告。

2. 3年以上会費滞納者の自然退会（永山）

資料：報2

平成9年度は国内102、海外2の計104名の自然退会者があった。近年は入・退会者がそれぞれ110前後、100前後で安定しているとのこと。

3. IUPABについて（藤吉、月原）

資料：報3

2000年に韓国で開催される3rd East Asian Symposiumについて、実質窓口を月原・藤吉両委員が務めることが確認された。

4. 第17期第1回生物物理学研連報告（郷通）

上記委員会が平成9年12月4日に日本学術会議で開催され、出席者は郷（信）、和田、巖佐、木下、桐野、郷（通）、田之倉、月原、中西、伏見、宝谷、堀田、松本であった。議題経過は以下のとおりである。

1. 委員長、幹事選出

互選により委員長に郷（信）委員、幹事に桐野、田之倉両委員を選出した。

2. 委員選出経過

15名の研連委員は次のようにして選出された。

和田昭允 生物物理研連推薦の会員

郷信広 関連国際学会（国際生物物理学連合）役員

宝谷紘一、柳田敏雄、郷通子、松本元、木下一彦、永山国昭、桐野豊、堀田凱 樹 日本生物物理学会から推薦された候補者10名中の上位8名、ただし、松 本氏は日本神経回路学会からの推薦も受けて選出された。

月原富武 日本結晶学会推薦

田之倉優 日本蛋白工学会推薦

伏見譲 生命の起源および進化学会推薦

巖佐庸 数理生物学懇談会推薦

中西守 日本バイオイメージング学会推薦

3. 17期学術会議方針

和田委員（第4部長）から説明があった。

第4部の中に理学総合研究会議を設けて、委員会の提言のくみ上げを図る。

生物物理研連からの委員として桐野幹事が選出された。

4. IUPAP 関係

Santa Fe Meeting, 2001年会議招致にについて、説明があった。

物理学会生体物理学分科が消滅の危機にあり、永山委員が対応しているについて、郷委員長から説明があった。

5. IUPAB 関係

IUPAB から委員の推薦依頼があり、柳田氏からの推薦をもとに本委員会で各 Task Group に下記の通り委員を推薦することにした。Environmental Biophysics に 巖佐、NMR に甲斐荘、Capacity Building に宝谷、Education に伏見 Bioinformatics に金久。

New Delhi IUPAB Congress が1999年9月開催で準備が進められている旨、郷委員長から説明があった。

6. 東アジア生物物理学シンポジウム

郷委員長から、2000年に第3回を韓国で開催し、2003年に第4回を台湾で開催する予

定である旨、説明があった。

7. 生物科学関係研連の動き

動物学研連などがガイアリスト21を推進するので学術会議でも支援してほしい旨依頼があり、生物物理学研連でも支援する方針であることを確認した。

8. 代表派遣

本委員会としては、1998年4月に郷委員長がニュージーランドのIUPABのcommitteeに出席するための費用を申請することとした。

9. 構造生物学小委員会

和田委員から説明があった。

10. 今期の活動方針

構造生物学小委員会について、郷委員長、和田委員より説明があった。

5. 平成10年度年会開催準備状況について（太和田） 資料：報5

開催準備状況とタイムテーブル案が報告された。審議事項については議題4を参照。年会開催前の学会誌（4，6，8月号）に年会案内ホームページのアドレスを記載してほしいとの提案があり了承された。

6. 平成9年度年会経理報告（赤坂・藤吉） 資料：報6

京都の年会は、広告収入と参加人数の増加を主な原因として、全体として255万円あまりの黒字を計上した。今後はこの繰越金を年会運営の緩衝金として使用することが確認された。ネットワークを用いた参加受付についてはこれからも最適な方法を模索していく必要があるとの意見が出された。年会実行委員より、広告業者(AE企画)や出版業者(リアライズ)の問題点が指摘され、他業者との競合させることも含めて次回以降の運営委員会で検討していくこととなった。

議題：

1. 賞・助成金推薦委員会顧問候補について（郷通）

資料：議 1

賞・助成金推薦委員会条文案が提案され了承された。今回は移行期に伴い、第2回運営委員会で顧問を選出することが併せて提案され了承された。これを受けて江橋、和田、丸山、京極、松本、郷信、郷通、葛西、宝谷の9氏が上記顧問候補として推薦され了承された。また他にも各種財団の評議員をしているような人物を積極的に推薦してほしいとの要望も出された。

2. 賞・助成金候補者推薦について（郷通）

資料：議 2

本学会推薦の藤原賞候補者として柳田敏雄氏が提案され了承された。学会として積極的に賞にアプライしていく方針上、各運営委員が候補者を積極的に推薦してほしいとの要望が出された。

3. 科研費委員について（郷通）

科研費の細目「生物物理」第1段審査委員の定員が3名から6名に増員されたことに伴う変更が了承された。

4. 平成10年度年会について

1. シンポジウム数について（太和田）

部屋数の関係などから、シンポジウム＋オーガナイズドセッションを6＋4、もしくは7＋3の計10演題とすることに決定した。シンポジウムは2日目の午前に行い、オーガナイズドセッションは一般講演と並行して走らせる。

2. 運営委員会側からのシンポジウム案（川戸）

資料：議 4－(用)

12月19日の時点で運営委員から提案されたシンポジウム案は計10演題。分野別専門委員、一般会員からの提案と併せてリストアップし、年内に運営委員会からのシンポジウム案、シンポジウム担当委員を決定する。その際、複数の提案を融合する場合には慎重にするべきとの意見が出された。

3. 年会会計について（松本）

近年年会の収支は黒字であるが、営利団体ではないので、学会としての内容を優先することが確認された。その上で財政的な努力はもちろん最大限に行うことも確認された。報告事項6を参照。

4. エーイー企画について（松本）

報告事項6を参照。

5. 平成11年度年会について（市川）

一般講演の発表形態を口頭にするかポスターにするかを討議し、すべてポスターとすることとなった。シンポジウム会場2ホールと臨時設営ポスター会場を使用する予定。次回以降運営委員会で詳しく議論する。

6. 会誌について

資料：議6

1.月刊化について（郷通）

会誌月刊化については、ネットワークの充実により情報が速く伝わることや、編集委員の負担が増大することなどから、月刊化に大きなメリットがあるとは言えない状況により、当面現行の隔月刊行を維持する。

2.A4版化について（郷通）

上記サイズ変更に関する見積もりを検討の結果、経済的な負担が大きすぎるとの理由より、当面現行のB5版を維持する。

7. Web ホームページ整理係について（市川）

新着情報源としての性格を重視し、学会ホームページの更新を随時行うために、アルバイトを一人専任させてはどうかという提案がなされた。2ヶ月間の試用期間をおき、4月の運営委員会で常設するかどうかを決定する。

8. 事務局問題について（松本）

学会事務局秘書に支払われる給与の額について、労働量に見合っただけの額を支払うべきとの提案があった。事務局が大学内にある以上、大学の非常勤職員の算出基準よりかけ離れた額では難しいとの意見があり、遠隔地手当や学会・運営委員会の資料作成費などの名目で、常識的に考えられる最大限に近い額を支給することとなった。事務局を大学から独立して置くかどうかという点も今後議論が必要との意見が出た。

9. 生体物理分科消滅について（永山）

資料：議9

物理学会の生体物理分科が、分科会再編の動向により、他の分科とともに学際領域に組み込まれる可能性が高いため、物理学会の運営に影響力を維持していくためにも、積極的に物理学会に参加してほしいとの要望があった。

10. 平成10年度発行名簿について（市川）

上記新名簿について、運営委員へのアンケートの結果、連絡先として基本的に所属機関と自宅の住所を掲載することとなった。自宅住所に関しては非掲載とするオプションも選択できるようにする。そのために発生する費用については、業者リスト（イエローページ）および広告を名簿内に掲載することにより充填する。

1 1. 名簿広告について（楠見）

資料：議 1 1

前記 1 0. に関して、エーイー企画による企業に対する広告掲載依頼文面を資料として配付。

1 2. 名簿掲載と広告募集（松本）

議題 1 0. 1 1. を参照。

1 3. 平成 1 0 年度分野別専門委員の決定（桂）

資料：議 1 3

上記委員の案と規定の改定案が提案された。委員候補で当学会員でない人には、会員になっていただくよう会長から依頼することとなった。規定に関しては、専門委員の数と、任期に関しての若干の改訂を行った。

1 4. 平成 1 1・1 2 年度学会委員候補者推薦について（市川）

資料：議 1 4

会誌 2 月号に掲載される学会委員候補推薦に関する案内文（案）が配布された。候補者推薦の締め切りは平成 1 0 年 3 月 3 1 日、免疫に関する記述に若干の訂正があった。

1 5. 編集実行委員について（桐野）

資料：議 1 5

編集実行委員と地区編集委員の名簿。

1 6. 次回及び次々回運営委員会日程（松本）

次回：平成 1 0 年 4 月 4 日（土）1 3：3 0～

次々回：平成 1 0 年 7 月 4 日（土）1 3：3 0～

場所：未定（名古屋）